

インドネシアの医師、日本の新生児蘇生教育を学ぶ

～新生児蘇生モニタで医療従事者の蘇生処置を支援～

■世界の新生児の約 15%が、呼吸に問題を抱え仮死状態で生まれてくると言われています。インドネシアでは新生児の死亡率が 1,000 人に当たり推定 10.75 人と高く※(日本は 1,000 人に 1 人)、適切な新生児蘇生が課題です。 ※出典: Neonatal mortality rate (per 1000 live births) WHO 2022

■その様な課題に対し、日本光電工業株式会社(本社:東京都、代表取締役社長執行役員 CEO 荻野博一)は、一般社団法人日本周産期・新生児医学会(新生児蘇生普及事業:NCPR)と協力し、「新生児蘇生率向上のための機器普及にかかるビジネス化実証事業」に取り組んでいます。同事業は、独立行政法人国際協力機構(JICA)の中小企業・SDGs ビジネス支援事業の支援を受けて行うものです。

■2022 年度グッドデザイン賞を受賞した新生児蘇生モニタ ブレスキュー NRM-1300 は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の支援を受けて、インドネシア、日本の医療従事者の声を聞きながら開発、製品化されました。点滅する LED とディスプレイのイラストで「換気のタイミング」や「適切な換気量」を把握することができ、医療従事者の蘇生処置を支援します。本事業では、インドネシアでの医療現場及び医療教育現場での教育ツールとしても活用が見込まれる同製品のインドネシア国内での普及に取り組めます。

■この度、事業の一環として、2024 年 7 月 18 日～21 日にかけてインドネシアの新生児医療に携わる医師 4 名を以下の日程で受け入れます。

期間: 2024 年 7 月 18 日(木)～21 日(日)

目的: 日本の新生児蘇生教育を学び、
新生児蘇生モニタ ブレスキュー NRM-1300 の
使用方法を視察する

対象者: インドネシア国で新生児医療に従事する医師

場所: 自治医科大学附属さいたま医療センター
国立成育医療研究センター
杏林大学医学部付属病院



NRM-1300 と利用イメージ

内容： 日本国内の医療機関にて NRM を実際に利用する状況を視察。
日本の医療従事者と NRM の利用、新生児蘇生にかかる教育について意見交換

■取材可能日時

本邦受入れ期間中、訪問先での取材は施設の関係上お受けしておりませんが、後日本案件につきご関心ある場合、お問い合わせを受け付けております。

問合せの締切り日は 7 月 26 日(金)まで。

【本件に関する問合せ先】

JICA東京 市民参加協力第一課（担当：清水）

TEL:03-3495-7680; Email:Shimizu.Toshihiro@jica.go.jp

中小企業・SDGs ビジネス支援事業概要：

https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/index.html